

学校の共通目標

授業づくり	重点	児童一人一人の理解度に応じた学習活動を工夫し、目的意識をもって主体的に学ぶための教育活動を推進する。	中間評価	校内研究を柱として、どの子にもわかった、できたを実感させられる授業改善の取組を実践している。	最終評価	繰り返し学習する機会を設けるなど個別指導の充実を図ること
環境づくり		全学年において、共通の学習規律を徹底して指導し、児童が主体的に学習に臨める学習環境をつくる。		学習規律の徹底を全学年で実践することで、児童が集中して学習に取り組めるようになりつつある。		校内での共通した学習ルールが浸透してきており、集中して学習できる環境が整ってきたことで、学力の向上が図られている。

学年の取組み内容

学年	教科	学習状況の分析 (10月)	課題 (10月)	改善のための取組み (10月)	最終評価 (2月)	
1	国語	<ul style="list-style-type: none"> 話を最後まで聞くことが難しい場面もある。 平仮名の読みは概ね理解している。書きは「は」「を」「へ」の使い方が難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章として書くことを苦手とする児童がいる。 片仮名の読み・書きがまだ定着していない。 	<ul style="list-style-type: none"> 週に一度作文に取り組む。授業中でも書く活動を意図的に取り入れる。 週に一度朝学習で片仮名の学習プリントに取り組みさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 作文に取り組んだことで、個別の指導ができ、書く内容や量を充実させることができた。 平仮名、片仮名、漢字プリントに取り組みさせ、習熟を図った。平仮名、片仮名はほぼ全員が習得することができた。漢字については全体で7割以上習熟している。 	
	算数	<ul style="list-style-type: none"> たし算・ひき算の計算は概ね理解している。 具体物を動かす場面を多く取り入れることで、計算の方法が分かってきた。最近では指も使わずに計算をすることができてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章問題を理解して演算決定することが難しい。 10のまとまりをつくるのが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 演算決定するために、キーワードとなる言葉に着目させ、色分けをする活動を取り入れる。 10のまとまりをつくるために、具体物・半具体物を使った活動を必ず取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> キーワードに目を向ける練習をさせたことで、演算決定の手助けとなり、正答率が上がった。 具体物・半具体物を使う活動を必ず取り入れたことで、理解が深まった。10のまとまりについては、2位数と1位数の計算を繰り返すことで理解が深まった。 	
学年	教科	学習状況の分析 (4月)	課題 (4月)	改善のための取組み (4月)	中間評価・追加する取組み (10月)	最終評価 (2月)
2	国語	<ul style="list-style-type: none"> 友達のスピーチを聞き、質問や感想を言うことができるようになってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> 話すこと聞くことについて最後まで相手意識をもって取り組むことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 聞くことを中心に取り組んでいく。 聞いたことをメモにとってまとめる活動や観点を与えて聞く活動を取り組んでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> 聞くことに対しては、聞き方のルールを確認し、視点を設け、ペア学習を通して少しずつ聞く姿勢が身に付いてきた。引き続き取り組んでいく。 話すことでは、話す観点をもち意識していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 話す視点を確認して話し合いをしたり、よい話し方をしている友達を発表させたりした。 聞く姿勢は身に付いてきたが、話を最後まで聞くことができない児童がいる。今後も継続して指導する。
	算数	<ul style="list-style-type: none"> 足し算や引き算の計算は、比較的身に付いている児童が多い。いろいろな考え方や、積極的に説明することでは個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な計算をすることはできるが、説明する力や文章題に課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えをノートにまとめ、ペアや全体の友達に説明することに取り組んでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを図や文にまとめることに時間がかかる児童が見られる。友達の考え方を学ぶことを通して、多様な考え方や書き方を身に付けさせていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ノート指導では、板書とノートの一体化に取り組んだことで、まとめる力が伸びてきた。 問題解決のため見通しをもたせたり、自分の考えをグループや全体で発表させたりしたことで、多様な考えを学ぶ機会を設けることができた。
3	国語	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に全国平均ぐらいの結果となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習に意欲的な児童が多いが、「書く」課題に苦手意識があり、取り組むまでに時間がかかる児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 書くことに抵抗がなくなるよう、2週に1回の朝学習の時間を使い、簡単な題材で「書く」経験を積ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えや感想を書く場面を増やし、短い文を書く活動を繰り返すことで、書くことへの抵抗を減らせるようにした。また、朝学習では月に1度、書く活動を取り入れた。 	<ul style="list-style-type: none"> 書く活動場面を多くすることで、苦手意識がなくなり、以前より積極的に「書く」活動に取り組むようになった児童が多い。
	算数	<ul style="list-style-type: none"> 数と計算の領域では、全国平均よりも上回っている。量と測定の領域では、全国平均より下回っており、特に、知識・理解が定着していない。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習熱心で与えられた課題に集中して取り組む児童が多い。時刻と時間の学習や分数の表し方を苦手とする児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> さらに基礎的な学習を定着させるために、単元ごとに既習を振り返らせ、理解を深めさせる。 新しい学習に取り組むときも、今まで使っていた方法が使えるように、学習の進め方、解き方も既習となるよう指導していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 「時刻と時間」は、個別指導にて、苦手とする児童に個別指導を行った。12月に学習予定の分数は、関係する既習事項を振り返らせることで、全体の基礎・基本の定着を図る。 ノート指導等の積み重ねにより、学習の進め方や解き方が既習となり、見通しをもって学習できるようになってきた。今後も学習内容の既習を生かせるよう指導していく。 	<ul style="list-style-type: none"> フォローアップシートやドリルを用いて、基礎・基本の定着を図り、東京マニックドリル総問題の正答率が4月より0.8ポイント上昇した。引き続き底上げを図っていく。 ノート指導を繰り返したことで、学習が深めることができた。課題への取り組み方を振り返ったり、位をそろえ見やすく演算したりというように学習を進められるようになった児童も多い。 基礎的な問題だけでなく、数量感や問う問題や、考える力を問う問題に課題のある児童が多い。
4	国語	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に全国の平均を少し上回っているが、区の平均は下回っている。特に、読むことの領域が低く、読み取り能力を向上させる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 語彙が少なく、長い文章に対して苦手意識をもっている児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 辞書を手元に用意し、こまめに辞書を引く習慣を付ける。語彙数を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> 辞書を用意し、分からない言葉があった時にはすぐに調べる習慣がついてきている。引き続き、辞書を活用させながら語彙を増やしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 辞書を引く習慣が身に付いてきたが、その頻度や獲得した語彙数が個人差がある。読み取り能力においては、物語の内容を読み取る力を向上させていく。
	算数	<ul style="list-style-type: none"> どの領域も全国平均を上回っており、A層の比率が高い。特に図形では、作図等も正確にできる児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習に意欲的な児童が多く、理解力も高い。得意不得意の差が大きい。 C層D層の底上げが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> どの単元でも、めあてと学習の見通しをもつ時間を設け、自分でまとめられるように指導していく。 苦手な児童には基礎的な学習を個別に指導していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ノート指導を繰り返した結果、自主的に見通しをもって学習をすすめられる児童が増えた。 苦手な児童には、個別に指導を繰り返した結果、意欲的に学習に取り組む児童が増えた。引き続き指導していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ノート指導を繰り返したことで、どの児童もすすんで学習に取り組めるようになった。また、工夫して見やすくまとめることができ、学習の深まりが感じられる。 個別指導を繰り返したことにより、D層の児童の正答率が最大で17ポイント中9ポイント向上した。他の児童も平均して、2.5ポイント向上している。引き続きC層D層の底上げをしていく。

5	国語	調すべての観点で、区の平均を下回っており、特に「書くこと」の正答率が低い。語彙の習得が十分でなく、全般的な底上げが必要である。	・書くことに苦手意識が強い児童が多く、自分の考えをもっているもそれを表出することが難しい。 ・語彙が少ない。	・学習規律の徹底とともに、学習スタイルの確立を行い、児童が見通しをもって学習を進められるようにする。 ・書くことに関しては、感想を書く際は観点を示すことで、それについての考えを書けるようにする。 ・国語辞典を常備させ、意味調べや漢字調べを行う中で語彙の習得を図っていく。	・書くことに関して、感想を書く際、「自分だったら」という観点を必ず取り入れるようにしたことで、文章量が増えてきた。今後は、内容を吟味し、自分の考えや思いを明確にして書けるようにする。 ・国語の時間だけではなく、他の教科の時間にも積極的に国語辞典を活用する姿が見られるようになってきた。引き続き、語彙の習得を図っていく。	・書く際には観点を示したことで、考えや根拠を明確にして書くことができるようになった。また、書く活動を多く取り入れたことで、抵抗感が徐々に薄れ、調べたことをノートにまとめる活動にも意欲的に取り組む児童が増えた。
	算数	調全体的に全国平均よりも低い正答率となっている。特に関心・意欲の項目の正答率が低い。D層の割合が高く、52%の児童が占める。	・個別に指導が必要な児童が多く、集中力に差が見られる。 ・児童一人一人の集中力を持続させ、確かな学びを保障することが課題である。	・教室でのルールを確立し、話の聞き方、ノートの取り方などを定着させることで、学習への意欲を高めていく。 ・確かな学びを保障することで、基礎的な学習を繰り返し行い、知識・理解を定着させていく。	・教室でのルールが徹底されてきたので、さらに指名したり、確認したりして、学習に対する集中力も高めていく。 ・既習の定着が薄い児童も多いので、学年を超えて、基礎基本の学習を繰り返し、定着を図る。	・学習意欲の向上、声をかけなくても自主的に準備できる児童が増えた。基礎的な学習にも熱心に取り組める児童が増え、C層D層の児童の底上げができていく。4月と比べると平均19ポイント中2ポイント上昇している。 ・既習の定着の薄い児童には、個別指導等を利用して、引き続き定着を図る。また、新しい単元に入る際、既習を振り返り定着を図る。
6	国語	調すべての観点で、平均を下回っている。学習の底上げが必要。文章の表現力を向上させることが必要である。	・自分の考えをどのように文章に書き表せばよいか分からない児童が多い。 ・書くことに対して、苦手意識をもっている児童もいる。	・書くことに対する苦手意識を取り除く必要がある。そのために、読む単元で登場人物の気持ちなどを、短い文章で書かせる。 ・書くことが難しい児童に対しては、定型文を提示して文章を書かせていく。 ・よい表現を紹介したり、ヒントを与えたりしながら、語彙を増やすとともに文の組み立て方などを覚えさせていく。	読む単元で、登場人物の気持ちなど、短い文章で書くことを繰り返し行った結果、文章を書くということに対して、苦手意識を低減でき、表現力も向上してきた。しかし、自分の考えを書き加えようとすると、表現が稚拙であったり、どう書いてよいか分からなかったりなどする児童が多い。自分の考えをどう書けばよいか、よい表現を紹介したり、ヒントを与えたりしながら、書き方を覚えさせていく。	書く学習を多く取り入れた。文章に盛り込まなければならない内容と順番を示し、自分の考えや思いを書くための練習を繰り返した。卒業文集を書く頃は、将来の夢や友達に送る言葉を表現できるようになってきた。まだ、文章で使う言葉が学年相応とは言い難いため、語彙を増やすことが課題として残った。
	算数	調全体的に全国平均より低く、D層に60.9%、A層には8.7%の児童が占める。領域では、図形が全国平均より25.7ポイント下回っている。	・論理的な考え方が苦手な児童が多く、課題等の意図を読み取ることが苦手である。個に応じた指導が必要である。	・課題の取り組み方の等を指導する場面を増やし、学習の見通しを立てさせる。話を聞きのがさないように、書くこと聞くこと考えることをまとめて活動させていく。 ・指名したり、振り返ったり、確認したりしながら、集中を高めていく。	・学習規範が定着しつつあるので、引き続き学習を受ける態度を育て、聞くとき、考えを言うときの区別をはっきりさせ、集中力を高める。 ・個に応じて既習を振り返らせつつ、D層の引き上げを図る。	・学習規範の定着に伴い、一部児童の行動が目立つようになってきた。引き続き、教室でのルールを徹底させ、個別指導していく。 ・既習を振り返りつつ指導を繰り返した結果、C層D層の児童が17単元中、3～5単元答率向上した。引き続き目標値に近づくよう底上げを図っていく。
音楽	学意欲的に表現や鑑賞の活動に取り組める児童もいるが、個別の支援を必要とする児童も多い。特に、リコーダーや鍵盤ハーモニカの活動で、苦手とする児童が数名いる。	・鍵盤ハーモニカやリコーダーの活動で、運指が覚えられない児童が数名いる。器楽が苦手、意欲が高まらない児童がいる。	・個別で指導したり、友達同士でのペア学習を多く取り入れたりと、鍵盤ハーモニカやリコーダーの技能の定着を図っていく。 ・視覚的に分かりやすく説明したり、スモールステップで練習して、技能の定着を図っていく。	・運指の確認や、ゆっくりのテンポでの活動を多く取り入れたことで、鍵盤ハーモニカやリコーダーの技能が定着した子どもの割合が増えてきている。音楽会もあるので、スモールステップで指導を継続していく。	・器楽の活動では、スモールステップで丁寧な指導したり、友達同士の活動を多く取り入れたりとすることで、苦手意識をもつ児童が少なくなった。11月に行われた音楽会でも、児童が満足感を得られるような行事となった。	
図工	学意欲的に制作できる児童が多い。図工が苦手な児童には、個別に支援し、丁寧な指導を行っている。また、本やインターネットを活用し、作品に活かす児童も多い。児童が理解しやすいように、実物投影機や写真などを提示し、授業を進めている。毎時間、声掛けや掲示をし、安全第一を心掛けている。	・児童の学習状況に差ができるため、制作の進行状況が異なる。 ・全学年、授業規律を徹底し、安全第一を心掛ける。	・児童の発達段階に応じて、進行状況を把握し、指導や声掛けを行う。アイデアが浮かばない児童には、本やインターネットを自主的に活用するように指導する。 ・授業規律を徹底するため、授業前に掲示物で手順等を示し、確認する。	・アイデアが浮かばない児童や制作が進まない児童には、興味のある事を考えるよう指導したり、本を勧める等、随時声掛けをしたりしているため、制作が進む児童が増えてきている。 ・児童の作品の良いところを褒め、学習意欲を高める。 ・今後も、はさみ等の危険な道具は、写真や実物投影機などで掲示しながら、安全第一を心掛けて怪我のないよう、授業を行う。	・児童の発達段階に応じて、進行状況を把握し、指導や声掛けを行い、作品を完成させることができた。 ・アイデアが浮かばない児童には、本等を自主的に活用するように指導し、制作に活かすことができた。 ・学習規律を徹底するため、ルールの掲示や声掛けを行い、図工室でのルールを定着させることができた。 ・全学年、大きな怪我もなく、安全第一を心掛けることができた。	

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況

※分量は2ページ以上となってもよい。